

白川河川敷の利活用について

白川河川敷の利活用について



検討エリア

白川河川敷の利活用について



白川河川敷の利活用について

- 自治会、小学校、行政が協力して協議会を設立し、河川敷の利活用を検討
- 「水辺の楽校プロジェクト」(国土交通省)を活用して整備を行う予定



ゾーニング計画図

多目的グラウンド

当該地区周辺には、公園やグラウンドがないため、高水敷の広いスペースは、現在、市民の遊び場などとして利用されている。このゾーンは、子供たちが思いっきり遊べる場として、また地域のイベント開催や交流の場として利用できるように多目的グラウンドを整備する。

環境学習と体験学習の場

周辺の人工河岸の中であって、この場所は現在、自然河岸の植生が見られ、水深も浅くなっている。このような地形や植生を活かして子供たちの環境学習の場として整備する。また、白川を利用した水上の動線確保と体験学習を行うためにカヌーの舟着場を整備する。

水辺の散策路

白川の景色を楽しみながら散歩できる散策路を両岸に整備する。将来的には白川全体を連結したネットワークを形成する。

自然環境の保全

この場所は現在、良好なアシ原が形成され、野鳥の多く見られる。今後も、野鳥観測などのできる場所として保全する。

緩傾斜の芝生広場

緩い傾斜の芝生広場を整備し、どこからでも水際に近付くことができるように親水性の向上を図ると共に、開放感と変化のある市民の憩いの空間とする。

エントランスゾーン

高水敷への入り口として、既設坂路の位置に駐車スペースとエントランスを整備する。また、高水敷へのアクセス性を向上するために既設坂路の中間地点に新たに階段およびバリアフリー対応の坂路を整備する。

S=1:1,000

0 50m 100m

計画イメージ平面図

芝生斜面のイメージ（遠賀川・直方市の事例写真）



環境学習のイメージ



休憩所のイメージ

